

# インドネシアと日本の薬用植物研究による健康寿命の増進

Increase of Healthy Life Expectancy by Studies on Indonesian and Japanese Medicinal Plants

プロジェクトリーダー 西澤幹雄（生命科学部）



## 目的 Purpose

日本の伝統医薬である漢方薬およびインドネシアの伝統医薬（インドネシアの漢方薬）であるJamu（ジャムー）で使われる生薬のうち、抗炎症作用に関わるものに焦点を当てる。これらは主に植物由来の生薬である。両国ではさらに発展して機能性食品として利用されることもあるが、経験的に病気の予防や治療に役立つことがわかっているだけで、成分や薬理作用に関する研究は十分とはいえない。そこで、Jamuと漢方薬に含まれる成分を明らかにし、薬理作用を調べて、伝統医薬の有効性を確かめ、高齢者に多い病気の予防と治療の基盤を形成することを目的とする。そして、アジア全体の健康寿命を延伸して健康の共創を確立する。

## 目標 Goal

インドネシアBrawijaya大学（BU）と立命館大学（RU）に日伊連携薬用植物研究センター（BU-RU Collaborative Herbal Research Center）を置いて、伝統医薬Jamuと漢方薬のうち、抗炎症作用に関わる生薬の成分研究と薬理学的研究を行う。植物由来の機能性食品についても研究を行う。炎症反応の指標としては一酸化窒素の産生を使って抗炎症作用をもつ活性成分を特定し、動物をもちいて薬理作用の検証を行う。具体的には次の目標を設けて、インドネシアと日本の植物由来の生薬から病気の予防と治療に役立つ成分を探索する。

- ①インドネシアと日本の植物由来の生薬から成分を抽出して、分析する。
- ②生薬の成分の単離をして、同定を行う。
- ③肝細胞をもちいて、生薬成分の抗炎症作用を評価し、作用メカニズムを解析する。
- ④病態モデル動物をもちいて、生薬成分の薬理作用を調べる。
- ⑤糖尿病や認知症の予防・治療に有効な成分を同定する。